

第66回徳島県高等学校総合体育大会陸上競技大会

競技注意事項

＜鳴門・大塚スポーツパーク ポカリスエットスタジアム＞

1. 競技規則について

本大会は、2026年日本陸上競技連盟競技規則ならびに、本大会申し合わせ事項によって行う。

2. 練習について

- (1) 練習は、指定された練習場所を使用すること。補助競技場では、トラック競技・跳躍競技および砲丸投の練習を行うことができる。＜砲丸投の練習は、必ず顧問教諭が立ち会うこと。＞
- (2) 競技場内での練習は審判員の指示に従う。投てきの練習時は、とくに安全に注意して行うこと。
雨天練習場(バックスタンド下)の使用について、走る方向は反時計回り同一方向とし、ハードル等の用具は使用できない。

3. 招集について

- (1) 競技者招集所は、南サイドスタンド1Fメインスタンド側(第1ゲート横)とする。
- (2) 招集時刻は競技時刻を基準とし、別紙『競技順序』に記載の通りとする。
※招集時刻は組により異なる場合がある。(競技順序に招集時刻を記載)
※フィールド競技においても参加人数により招集時刻が異なる。(競技順序に招集時刻を記載)
※トラック競技の招集後の競技場内待機場所は、別紙『競技順序』に記載している。
- (3) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を欠場したものとして処理する。
- (4) 招集の手順
 - ①競技者は招集開始時刻までに、招集所で待機し、点呼を受ける。その際、競技者係にアスリートビブス(ナンバーカード)・スパイク・衣類・持ち物等の確認を受ける。
 - ②種目を同時に兼ねて出場する(競技終了時刻と次種目の招集開始時刻が重なる)競技者は、あらかじめ本人または代理人が競技者係(招集所)に2種目同時届を提出する。
(2種目同時届は招集所で受け取る) [TR4.3]
 - ③リレー競技に出場するチームは、招集所でリレーオーダー用紙を受け取り、必要事項を記入し、当該組の招集完了時刻の1時間前までに競技者係(招集所)に提出すること。また、次のラウンドにおいても予選に準じて行うこと。
 - ④欠場する場合は、招集開始時刻までに競技者係(招集所)に欠場届を必ず提出すること。
(欠場届は招集所で受け取る)
 - ⑤混成競技は第1日目・第2日目とも第1種目は競技者係が招集所にて招集するが、それ以降の種目については、現地集合とする。(混成競技控え場所は「本競技場メインスタンド1F雨天練習室：南側」とする。)
 - ⑥棒高跳の招集は、競技場所で行う。招集完了後は、公式練習に入る。
 - ⑦招集開始時刻および招集完了時刻は、出場者数に応じて種目ごとに設定している。詳細については、別紙『競技順序』で確認すること。

4. 競技について

- (1) 競技者は、当該種目以外メインスタジアム1Fアリーナ(競技区域)内に立ち入ることはできない。
- (2) 短距離種目では、競技者の安全確保のためフィニッシュライン通過後も自分のレーン(曲走路)を走ること。
- (3) トラック競技において、欠場者がでた場合はそのレーンを空けて行う。
- (4) トラック競技(セパレート種目)において、8名(8チーム)以内の場合は2～9レーン、9名(9チーム)の場合は1～9レーンで行う。
- (5) トラック競技の計測は、全て写真判定装置(全自動電気時計1/100)で行う。

- (6) 4×100mR の第2・第3・第4走者は、各自が用意するマーカー（1カ所）を使用することができる。そのマーカー以外は使用してはならない。〔TR24. 4〕
- (7) 4×400mR の第3・第4走者のバトンの受け渡しは、コーナートップ順に内側より並ぶこと。コーナートップとは、第3コーナー内側に示された黄色旗を通過した時点の順位のことである。この後は、並んだ順序を変えてはならない。なお、次走者は、テークオーバーゾーンの内側より走り出さなければならない。〔TR24. 20〕
- (8) 跳躍・やり投の競技者は、助走路の外側に主催者が用意したマークを、2カ所置くことができる。マークはそれぞれの審判員が現地で渡す。それ以外は使用してはならない。（走高跳の競技者は、助走路に各自が用意したマークを、2カ所置くことができる。）〔TR25. 3〕
- (9) 三段跳の踏切板は、男子は11m、女子は9m地点に設置する。
- (10) フィールド種目の公式練習は原則2回とする。
- (11) ビデオ・ラジオ・CD・トランシーバー・携帯電話もしくは類似の機器等を競技場内に持ち込むことができない。あらかじめ学校関係者等に預けること。〔TR6. 3〕
- (12) 不正スタートについては、混成競技を除き、一度の不正スタートでその責任を有する競技者は失格とする。混成競技においては、各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後不正スタートした競技者は、すべて失格とする。〔TR16. 8〕（2026年度全国高校総体競技注意事項に準ずる。）

5. 助力について

競技場内の指定された場所（コーチングエリア）以外において、助力（指示や助言等を含む）を受けている競技者は審判長によって警告され、さらに助言を繰り返すとその競技者は失格となる。フィールド競技に関しては、指導者とコミュニケーションをとることができる。その場合は、競技場内のコーチングエリアからのみとする。ただし、競技役員の指示に従わない場合は助力を受けたものとみなす。〔TR6. 4. 5（その録画再生機器や録画映像は、録画映像を提供する者のすぐ近く的位置であれば競技区域内に持ち込むことを認める。画像をより詳しく見るために、競技者は画像を撮影した人とコミュニケーションを取りながら録画再生機器を手にしても良い。）〕

6. 競技用シューズについて

スパイクシューズのピンの長さは、9mm以下とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以下とする。これらのピンの直径は、少なくとも長さの半分が4mm四方の定規に適合し、数は11本以内とする。

※シューズの靴底（ソール）の厚さについて〔TR5. 2〕

a 競技用靴とは、スパイク、ランニングシューズを含むものである。

b 全ての種目の靴底の厚さは20mm以下とする。ただし、競歩については40mm以下とする。

※日本陸連競技規則に準ずる。

※競技用シューズについては〔TR5. 2〕に基づいて実施する。必要に応じて、競技役員が競技用靴を競技前、競技中または競技後に検査することもある。

7. アスリートビブス（以下ビブス）について〔TR5. 7〕

ビブスは指定された大きさ（横24cm以内×縦16cm以内）で、ユニフォームの胸部と背部に付けること。

折り曲げたり汚したりしないこと。ただし、跳躍種目に出場する競技者は胸部または背部だけでもよい。

※トラック競技者は、写真判定用の腰ナンバー標識（プログラム記載の左側に示された番号）を各自で用意し、腰部の右後方に付けること。（4×100mRの第4走者も同様である。）

ただし、1500m以上の競技および4×400mR（全走者）については、プログラム記載の左側に示された番号の腰ナンバー標識を左右につけなければならない。腰ナンバー標識（横12cm×縦18cmを基準とする）は各自（各校）で用意し、安全ピンなどで剥がれ落ちないように対策をする。

（主催者は用意しない。）〔TR5. 10〕

※5000m、3000mSC、3000m、5000mW、**4×400mR（全走者）**の競技者は、ビブスの位置に、腰ナンバー標識（プログラム記載の左側に示された番号）と同じ番号の**ビブスを各自（各校）で用意し、胸部と背部につけなければならない**。ビブスの大きさはA5サイズとし、安全ピンなどで剥がれ落ちないように対策をする。（主催者は用意しない。）★決勝種目は主催者が用意する。（予選を実施した種目のみ）

8. 競技場の中に商品名のついた衣類・バッグ類を持ち込む場合について

- (1) 日本陸上競技連盟「競技会における広告および展示物に関する規定」を適用する。
- (2) 競技役員に指摘された場合は、その指示に従うこと。
- (3) 競技者が使用する医療用テープまたは一般的なテープは、無地に限る。どちらのテープにおいても商品名・ロゴが記載されたテープを使用する場合は、大会主催者の書面での承認が必要である。

9. 競技の抽選ならびに番組編成について

- (1) 予選におけるトラック競技のレーン順、ならびに跳躍・投てき競技の試技順は、プログラム記載左側に示された番号順とする。
- (2) リレーチームの編成メンバーは、どのラウンドにおいても、その競技会のリレーまたは、他の競技種目に申し込んでいる競技者であれば出場することができる。ただし、どのラウンドにおいても、出場するメンバーのうち、少なくとも2人は当該リレー種目に申し込んだメンバーでなければならない。最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、2人以内に限り、他の競技者と交代することができる。〔TR24. 10〕
また、リレー競技に出場するチームは、同一のユニフォームで参加しなければならない。〔TR5. 1〕
※同一のユニフォームとは、形状を統一する必要はなく、デザインや配色は統一する。
つまり、同じチームであること審判が判断できれば問題ない。
- (3) リレーチームの編成は、一度申告したら変更は認められない。申告後は、招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。この規則に従わなければ、チームは失格となる。〔TR24. 12〕
- (4) トラック競技においてプラス出場者を決める場合、その最下位で同成績（判定写真を拡大し、細部まで読み取り着差を判定し、着差がない。）がでた場合は、下記の方法で決定する。〔TR21. 5〕
 - ①100m・200m・400m・800m・100mH・110mH・400mH・4×100mR・4×400mR 競技の場合
同成績者については、次のラウンドへ進むことができる。レーンに余裕のない場合は、同成績者または代理人によって抽選する。
 - ②上記の①以外の種目の場合
同成績者については、すべて次のラウンドに進めることとする。
※四国大会出場者の選出は、この限りでない。

10. 競技用具について

- (1) 競技に使用する用器具は、棒高跳用「ポール」以外、すべて主催者が用意したものを使用しなければならない。やり投の持ち込み検査については、今年度は実施しない。
- (2) 練習用として個人の用具は主競技場に持ち込んで서는ならない。

11. 走高跳・棒高跳におけるバーの上げ方

走高跳	男子	1m40・1m55・1m70・1m85(練習)	1m40 ~ 1m75 までは5cm	以降3cm
	女子	1m20・1m30・1m40・1m50(練習)	1m20 ~ 1m50 までは5cm	以降3cm
棒高跳	男子	1m60・2m40・3m20・4m00・4m80(練習)	1m60 ~ 3m60 までは20cm	以降10cm
	女子	1m50・1m90・2m30・2m70・3m10(練習)	1m60 ~	以降10cm

- (1) 走高跳・棒高跳の決勝で最後の一人になり優勝者が決まるまで、上記のバーの上げ方とする。
- (2) 第1位が同成績の場合、順位決定のためのバーの上げ下げは、走高跳では2cm、棒高跳では5cm単位とする。〔TR26. 9. 4〕

12. 競技場の入退場について

トラック競技の競技者の入退場は、係員の指示に従うこと。

13. 表彰およびインタビューについて

- (1) 各種目第3位までの入賞者は、ユニフォームまたはチームジャージで表彰式に出席すること（下半

身はジャージまたはハーフパンツ等が望ましい)。その際、入賞者は決勝終了後すぐに入賞者控え場所(メインスタンド1F正面玄関ロビー内)で待機し、係員の指示を受けること。

- (2) 入賞者のインタビューは、入賞者控え場所で行う。
- (3) 入賞者の得点は、1位8点、2位7点、3位6点・・・8位1点とする。
- (4) 男子・女子それぞれ最優秀選手の表彰を行う。

14. 競歩競技について

競技進行上、以下の時間内に最終周に入れない場合はその時点で失格とする。

男子 5000mW [35分00秒]

女子 5000mW [37分00秒]

15. 長距離種目の番組編成について

- ・5000mについて、出場者が30名を超えない場合は決勝のみとする。
- ・1500mを超える競技において、その組の出場者の半分を超える選手が次のラウンドに進む場合は、そのラウンドを行わない。

16. その他

- (1) 大会期間中、競技場で発生した傷害や疾病はメインスタンド1Fの医務室で応急処置を行うが、その後の責任は負わない。なお、参加者は健康保険証を持参すること。感染症の疑いがある症状の場合は、医務室での処置は一切行わない。この場合は引率責任者(顧問)が責任を持って対応すること。
- (2) 更衣は第二競技場の更衣室を利用することができる。ただし、貴重品は各自で保管すること。
- (3) 記録証の交付を希望する競技者は、大会本部に交付料金500円を添えて申し込むこと。
- (4) 記録は、徳島陸上競技協会ホームページに記録速報として期間中掲載する。
- (5) 競技場内でテントを張れる場所は、バックスタンド2階通路より上の場所に限る。横断幕・部旗・のぼり等については、メインスタンドを除くスタンド最上段とする。ただし個人名入りの横断幕等は禁止する。(のぼりについては、毎日撤収すること。)
- (6) 傘の使用は認めるが、ポカリスエットスタジアムでは中央通路より上の使用のみとする。中央通路より下(中央通路含む)での使用は、観戦の妨げになるため認めない。移動時の使用は十分気をつけること
- (7) 優秀選手について
 - ①今大会記録が、昨年度の全国高校ランキングで20位以内に相当する選手から選考する。
 - ②上記の①の該当者がいない場合には、優勝校から選出する。
- (8) 前回大会優勝校にはレプリカを与える。連続優勝については5・10年で表彰する。5年以上10年に達しない場合にも表彰し、その偉業を讃える。
- (9) 種目結果の正式発表時刻は記録確定時刻とする。
- (10) 警告及び失格について〔TR7〕
 - ①審判長は当該規則またはCR6.1(注意)ii、iii、iv、TR6、16.5、17.14、17.15.4、25.5、25.19、54.7.6、54.10.8、55.8.8に違反があった競技者やリレーチームに警告を与えたり、当該競技会から除外したりする権限を持つ(警告はイエローカード、除外はレッドカード)。
 - ②2回の警告の提示を受けた競技者(リレーチーム)は、当該種目を失格とし、競技会から除外する。2度目の警告が違う種目で行われた場合は、2度目の種目で失格となる。
※警告(イエローカード)2回→競技会から除外(レッドカード)
- (11) フィールド競技の手拍子について
トラック競技が行われている時間帯の手拍子は禁止とする。
- (12) 撮影禁止エリアの設置及び不適切な撮影行為の禁止について
競技者がスターティングブロックを用いてスタートする場合の前方および後方からの撮影や跳躍競技者の助走前方からの撮影(棒高跳は助走前方および後方、走高跳は北側サイドスタンドからの撮影)についても禁止する。ただし、走高跳においてチームスタッフ(選手・監督・コーチ)が撮影する場合は、北サイドスタンドからの撮影を認める。
※撮影禁止エリアで撮影行為を発見した場合、また撮影禁止エリア以外でも不自然な撮影行為や盗撮が疑われる場合については、競技役員が撮影内容を確認させていただきます。なお、

盗撮を発見した場合は、直ちに警察へ通報いたします。

※盗撮防止対策として、撮影許可証を持っている方のみ撮影を許可します。撮影許可証は、各校顧問が作成して関係者へ配布いたします。撮影許可証をお持ちの方は、別紙『連絡事項』の撮影禁止エリア等について十分ご確認ください。なお、撮影時は撮影許可証を競技役員が確認できるように（競技役員から見えるように）提示してください。

17. 提出書類について 1～3 の用紙は招集所、5～6 の用紙は大会本部に用意してある。

	提出書類	提出先	提出時間
1	欠場届	招集所(競技者係)	招集開始時刻まで
2	2 種目同時出場届	招集所(競技者係)	第 1 種目の招集開始時刻まで
3	リレーオーダー用紙	招集所(競技者係)	当該組招集完了時刻の 1 時間前まで
4	抗議申し立て(口頭)	大会本部	注意事項 18「抗議と上訴について」参照
5	上訴申立書(文書)	大会本部(上訴担当総務員)	注意事項 18「抗議と上訴について」参照
6	記録証交付願	大会本部	

18. 抗議と上訴について [TR8]

- (1) 競技中に起きた競技者の結果または行為に関する抗議は、当該競技者の監督により、その種目の結果が正式発表されてから 30 分以内（同一日に次のラウンドが行われる種目では 15 分以内）に、審判長に対して口頭でなされなければならない。（大型スクリーン表示終了時刻を基準とする。）抗議者は大会本部に申し出ること。
- (2) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。審判長裁定を不服としてさらに上訴する場合は、当該競技者の監督により、預託金 20,000 円を添えて「上訴申立書」を大会本部上訴担当総務員に提出されなければならない。なお、「上訴申立書」の提出時刻は、その種目の結果が変更された場合は正式発表から 30 分以内（同一日に次のラウンドが行われる種目では 15 分以内）に、または、その種目の結果が変更されなかった場合は抗議者に対して、その旨が通告されてから 30 分以内（同一日に次のラウンドが行われる種目では 15 分以内）とする。